

1年を振り返って

(ひさまつクリニックが診療介入したがん患者さんの状況について/2018年6月～2019年5月)

今年も、診療で関わったがん患者さんについて、振り返りの時期が来ました。

この1年に旅立たれた方々は37名でした。

お一人お一人との関わりで中での色々なことを思い出しながらの作業でした。

この1年は、今までとは決定的に違う傾向が見られました。

2016年、2017年は、最後までお家で過ごされた患者さんの割合は、63%、72%でしたが、今年は46%でした。

理由として、

・訪問診療を開始した時点で治療継続を希望していた方が多かった。

治療の経緯、また治療中止となってからも種々の理由で、病院に入院して最後を迎えた方が多かった。

・患者さんをご自宅で支える家族の状況に配慮して入院となったケースが多かった。

ことが挙げられます。

がん治療は多様化の一途をたどっており、治療継続中に訪問診療依頼をお受けすることが増え、

治療病院と連携しながら、在宅療養での患者さん・ご家族の様子を細やかに見守ることが私共の役割と考えています。

また、がんによる辛い症状を和らげる症状緩和については緩和ケア病院と同等のスキルを持った上で、

ご本人・ご家族の意思に添って、在宅・入院など療養の場を決められるよう対応しています。

現在積極的に取り組んでいることとして、

系列事業所である平和会訪問看護ステーション(中央・紫原)との連携も深めつつ、

他の訪問看護ステーションともチームを組むことによって、

鹿児島市内様々な地域の患者さんに、細やかにまた迅速に対応できるよう努めています。

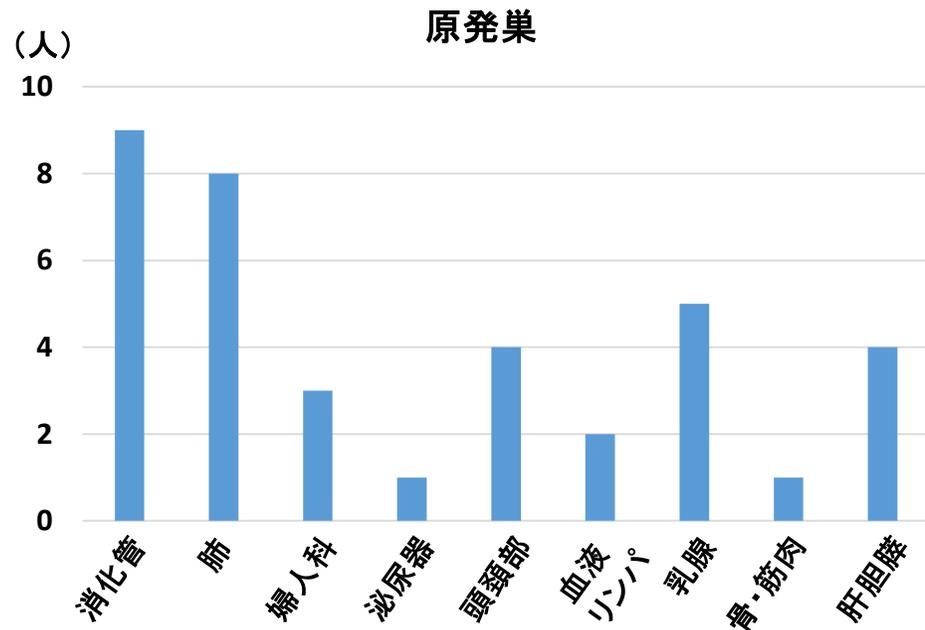
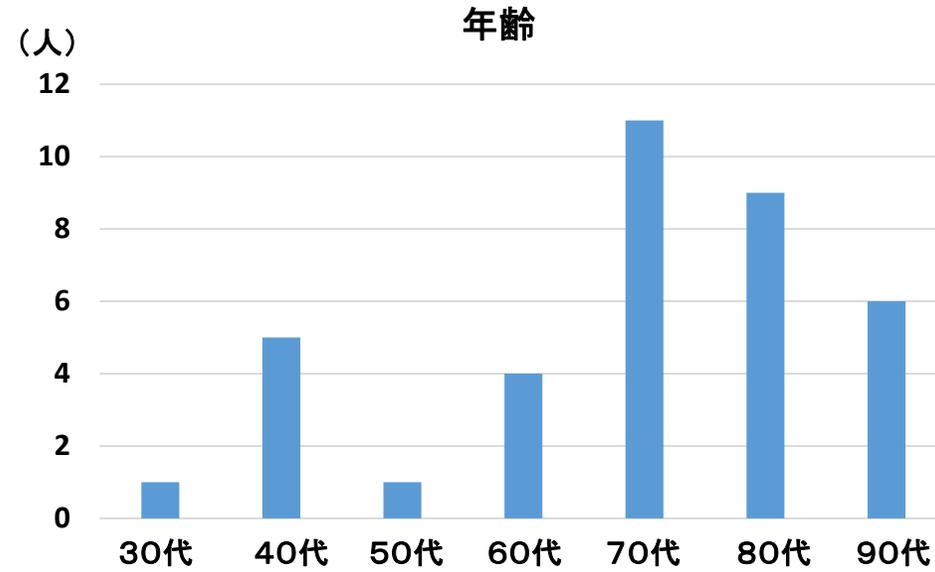
種々の職種とお互いに研鑽して在宅療養の質を高めることができるよう、定期的に外部向け勉強会も開催しています。

人のつながりが広がり深まっていることを少しずつ実感しております。

これからの1年もますます、皆様のお役に立てますよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

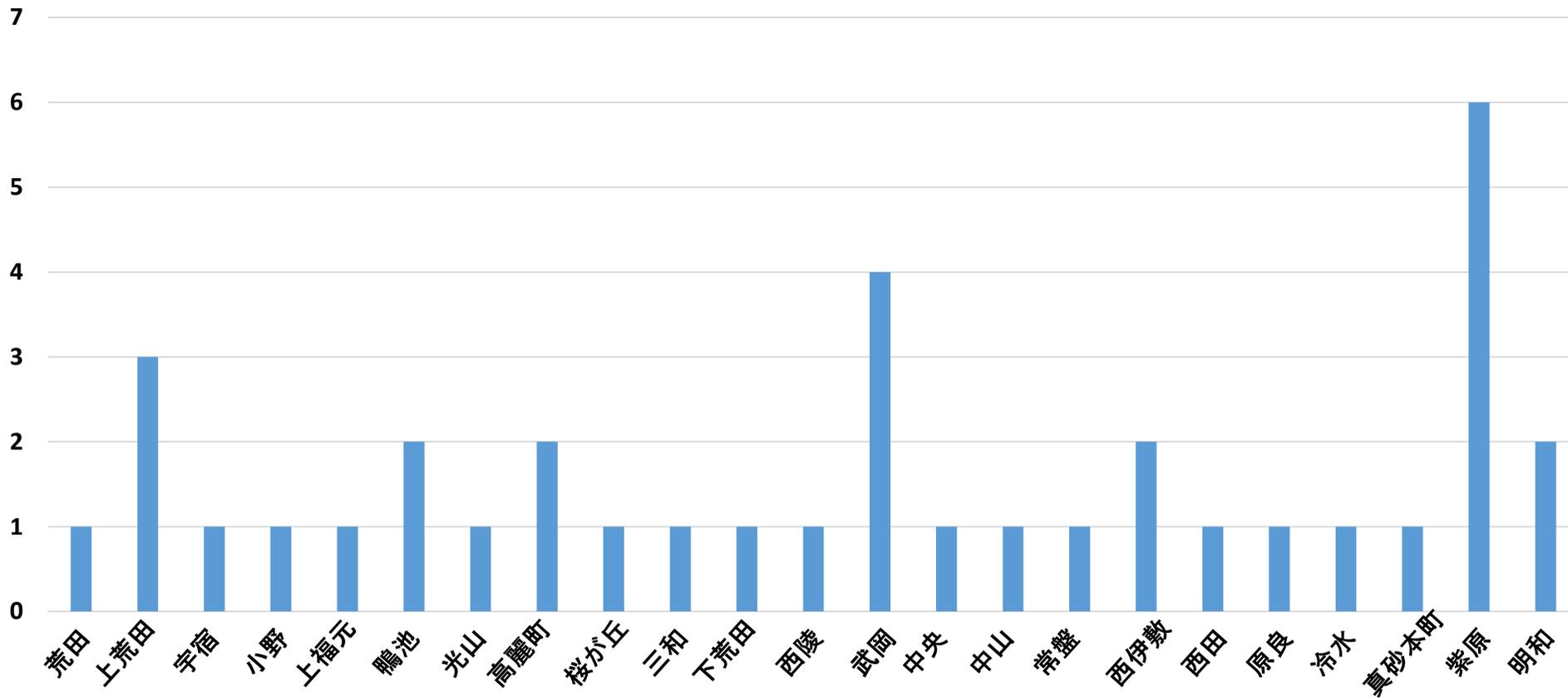
令和元年6月8日 平和会ひさまつクリニック 診療部 田中千恵

2018年6月～2019年5月 がん患者の看取り状況 (この間に逝去された37名についての解析)



(人)

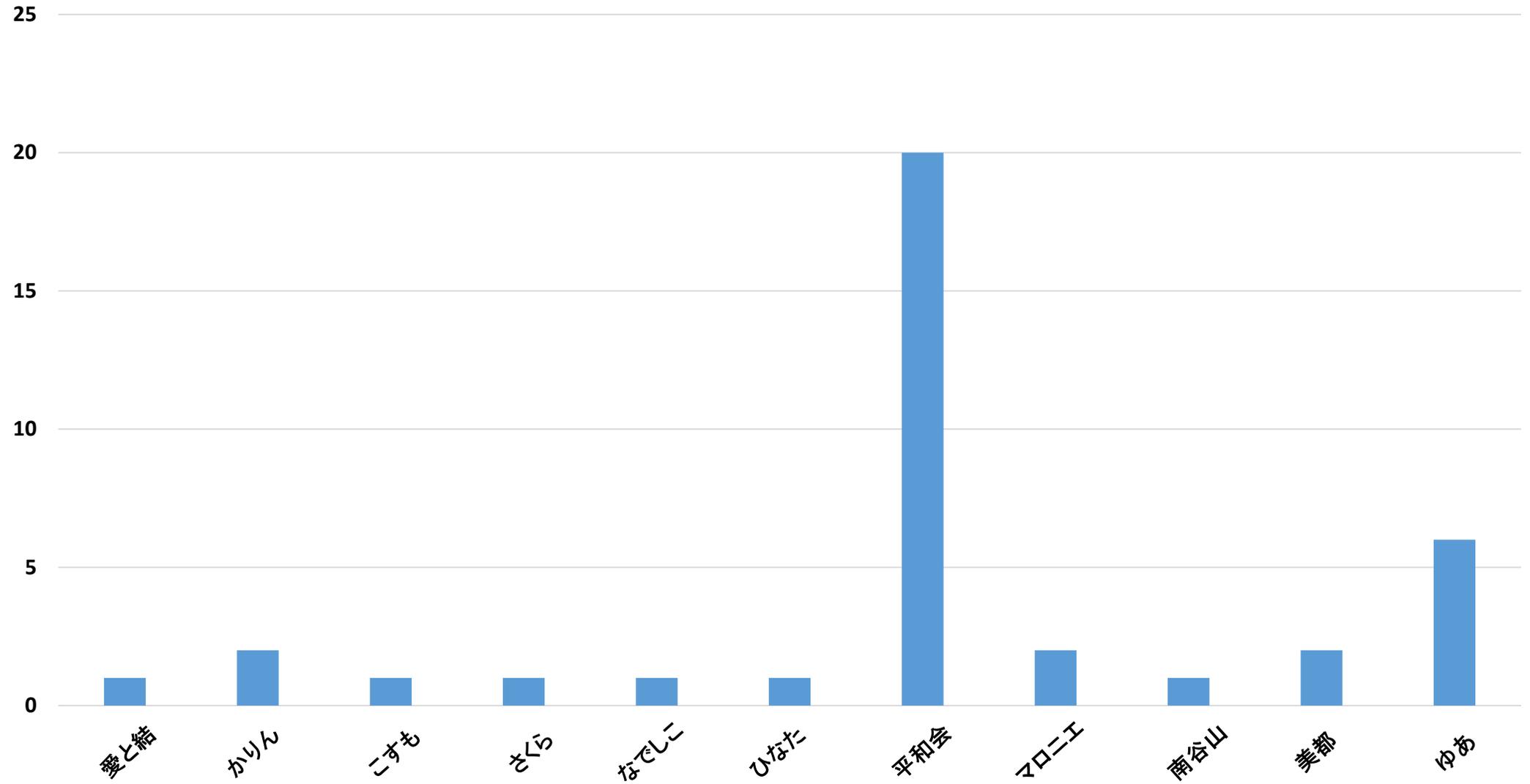
地域別



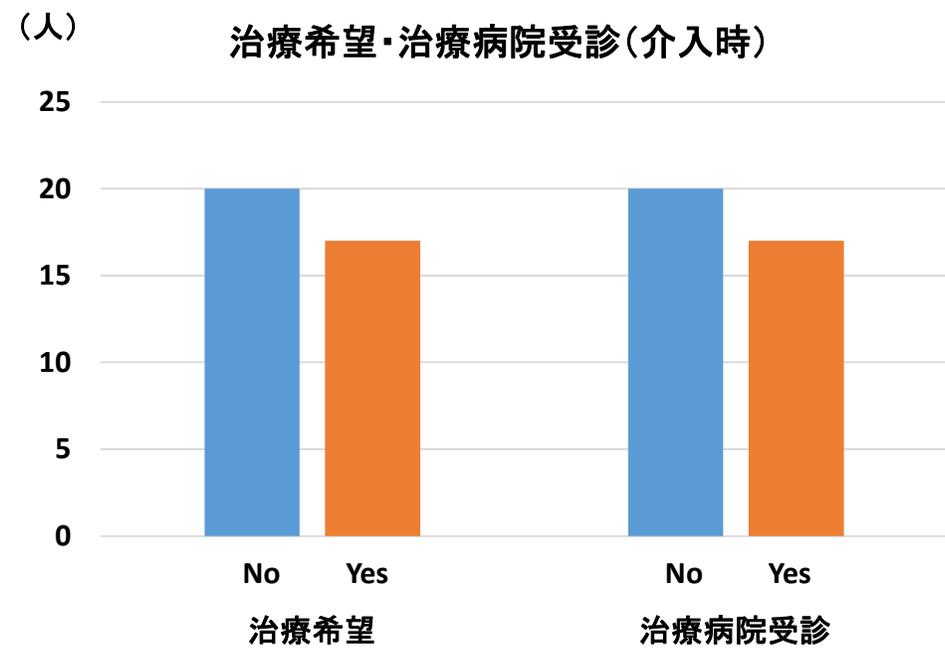
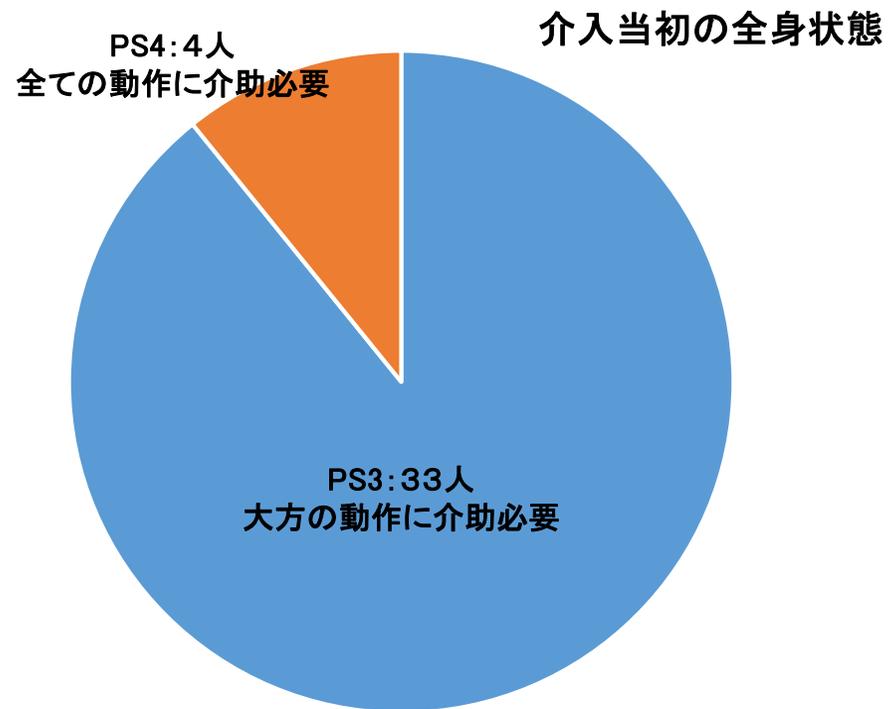
診療受け入れ: 旧喜入町、旧桜島町を除く鹿児島市内
実際に診療に何うのにかかる時間を目安に検討します。

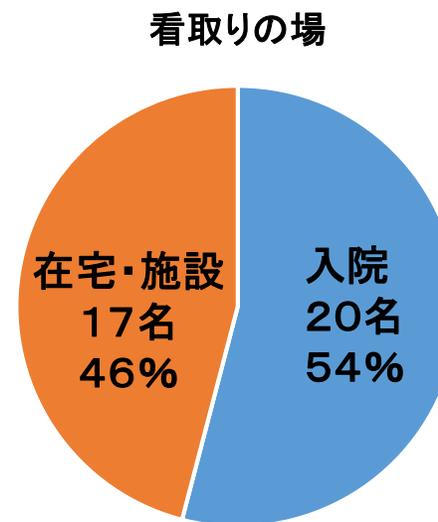
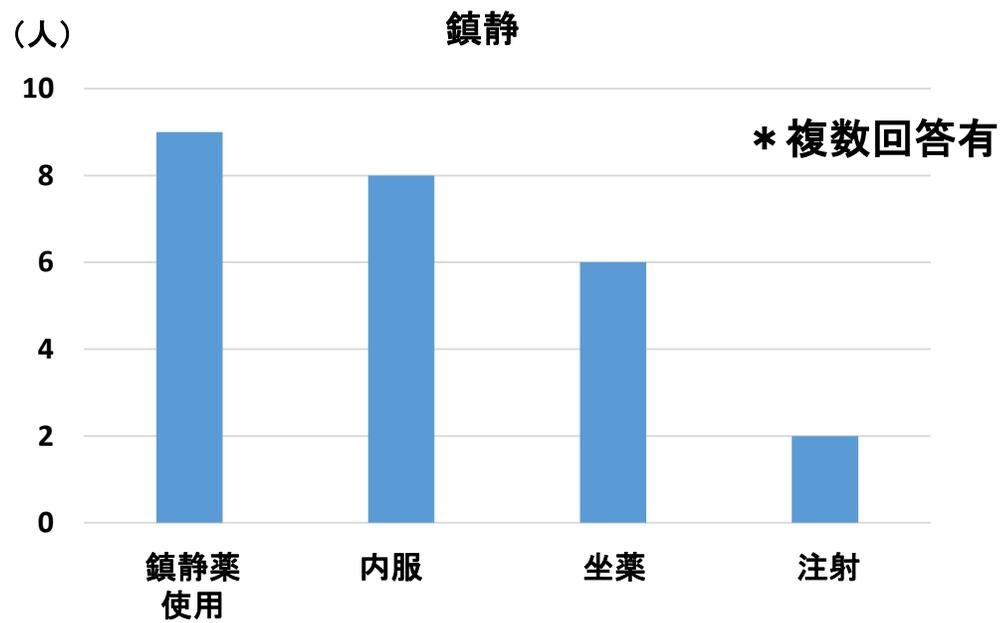
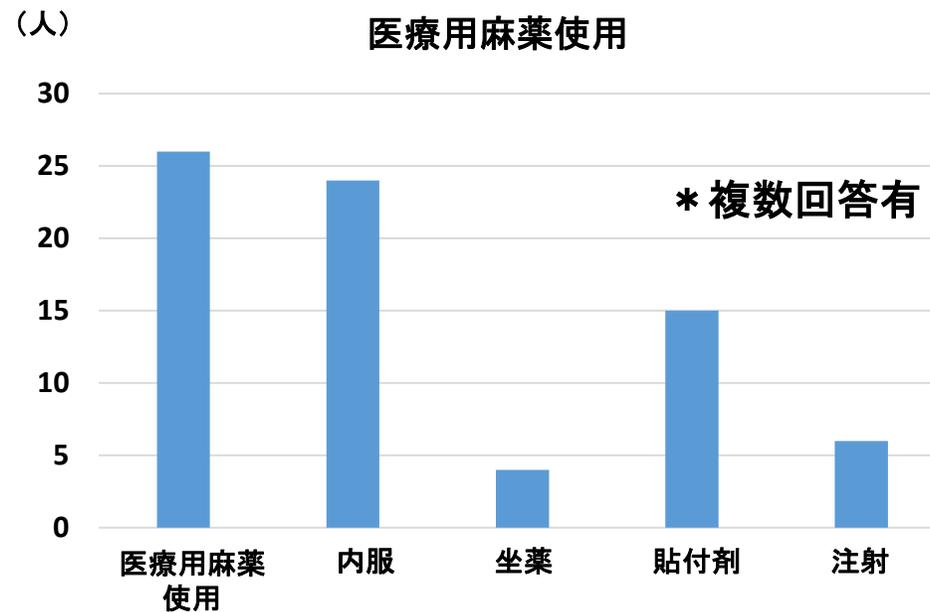
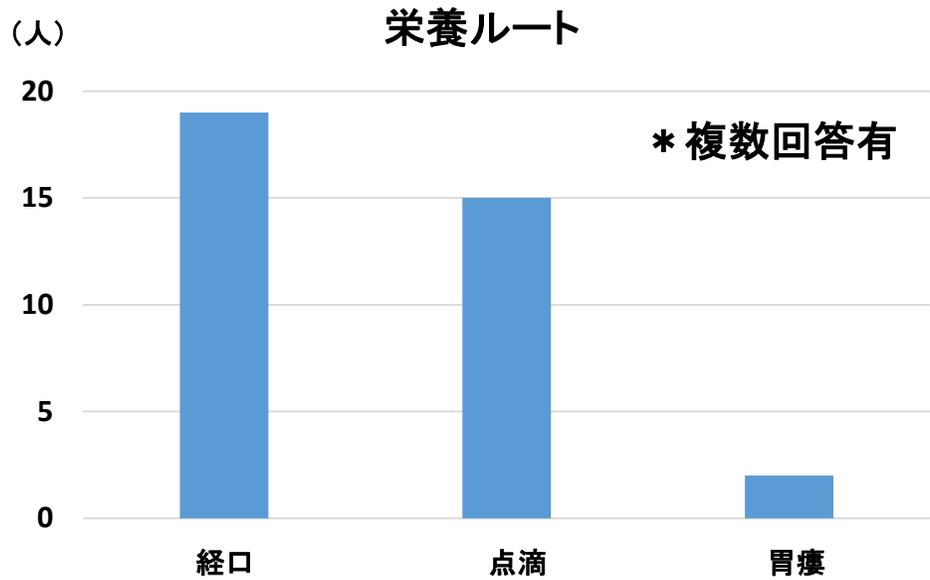
(人)

訪問看護ステーション



1名は訪問看護ステーション2か所で介入





在宅・施設での看取り率
 平成28年度 63%
 平成29年度 72%